

壺屋ニシヌ窯跡における瓶・徳利

吉田 健太

1. はじめに

ニシヌ窯跡は壺屋古窯群内に所在する窯跡の一つであり、那覇市立壺屋焼物博物館建設の際に記録保存を目的とした発掘調査が実施された窯跡である。

本稿は、本誌前号のニシヌ窯跡発掘調査出土遺物報告に引き続き、荒焼の瓶・徳利の器種を詳細報告するものである。報告の前置きとなる、1. はじめに、2. 遺跡の位置と地理的・歴史的環境、3. 調査に至る経緯、4. 調査の成果（窯体の構造）5. 調査の成果（出土遺物集計）については本誌バックナンバー第23号所収の吉田2022「ニシヌ窯跡発掘調査出土遺物報告」に掲載したので、ご参考頂ければ幸いである。

2. 瓶・徳利

瓶は、琉球陶器の中でも最も多様に発達し、沖縄独特の器種も多い。カラカラは1～2合の泡盛が入る注口の容器で、上焼が主であった。またカラカラとセットで使用されるものに施釉の盃（チブ小）があった。お祝いには嘉瓶（ユシビン）という祝い事があった時に泡盛を入れて贈る。お祝い後、容器は後に返却するとされる。行楽には抱瓶（ダチビン）という紐を通して肩から下げられる携帯用の三日月形の容器があった。上焼陶器が多い陶工たちが腕を競って名品を製作したといわれる。お供えの際に用いたのがフチュクルビンや瓶子（ビンシー）、対瓶（ツイビン）、渡名喜瓶（トナキビン）などがある。フチュクルビンは泡盛を入れて祖先へのお土産とするミニチュアサイズの陶器である。瓶子は一对で泡盛を入れ仏前に備えるもので上焼が多かった。対瓶は一对で泡盛を入れ仏壇や拝所におそなえする荒焼であった。渡名喜瓶も同様に泡盛を入れたものを墓前におそなえするためのものであった（那覇市史編集委員会1979）。

徳利は、トゥックイとも呼称される。荒焼の丸っこい形状のものが多く、その容量によって、一沸（チュワカサー）、二沸（タワカサー）などと呼ぶ。一沸（チュワカシ）とは一升のことである。しかし中には、容量とは関係なく七合二沸（シチゴータワカサー）と呼ばれる紡錘形のものもある（曾根1983）。シチゴータワカサーにおいては戦後、付近からたくさんの欠損品などがみついていることから、多く焼いた窯として西の窯を挙げられている（宮城1992）。徳利は主に泡盛を入れる器として用いられていたことから、沖縄県外でも確認されており、近世の江戸・京都の市中では、琉球製の泡盛が売られていた記録も残されている（喜多川1867）。

よしだ・けんた：(那覇市市民文化部文化財課埋蔵文化財グループ 主任学芸員)

3. 資料紹介

本稿内においては、最大径を胴部付近にもち頸部が窄まっており、頸径 / 胴径が 1/3 以下のものを「瓶・徳利」、として整理・設定した。

ニシヌ窯跡の窯内の発掘調査では、総数 12,086 点の遺物が確認された。そのうち荒焼の瓶・徳利は 295 点検出されている（吉田 2022）。本報告では、攪乱など出土層位不明のものを除いた 250 点の中から、口縁部が把握できる全点 48 点と残存状況の良い底部 2 点の計 50 点の報告を行う。瓶・徳利の各々の層序別出土状況および観察事項は表 1 のとおりである。

出土した瓶・徳利の口縁部形状は全体的に外反する形状を有しており、口縁部断面を見ていくと、口縁端部が丸く収まるものと、口縁端部に端面が形成されるものに分類される。また層序が新しくなるのに伴い、口径が小さくなる、頸部の長さが短くなる、器厚が薄くなるといった特徴が各所に見受けられ、製品の小型化の可能性が示唆される。

4. おわりに

壺屋古窯群のニシヌ窯跡より出土した遺物については整理中であるが、膨大な数量のため完了していない。したがって整理できた器種を順次報告していく予定である。今回は瓶・徳利の器種について報告をおこなった。今後も引き続き、出土資料の整理・詳細報告を重ねていく所存である。なお、本稿をまとめるにあたり、島弘氏、仲宗根啓氏、倉成多郎氏、真栄城和美氏、豊里加奈子氏、宮里朝野氏より御教示・御指導を賜りました。記して感謝申し上げます。

参考文献

- 喜多川守貞 1867 『守貞謄稿』5 朝倉治彦・柏川修一編 1992 東京堂出版
曾根 信一 1983 「トゥックイ」『沖縄大百科事典』中巻 沖縄タイムス社
宮城 篤正 1992 「泡盛に関する陶器」『やちむん』第 11 号 やちむん会
仲宗根 求・小原 裕也・伊波 勝美
2013 「喜名古窯跡（瓶編）」『読谷村立歴史民俗資料館紀要』第 37 号 読谷村立
歴史民俗資料館編
那覇市市史編纂室
1979 『那覇市史』「資料篇 那覇市の民俗」第 2 巻中の 7 那覇市市史編纂室
吉田 健太 2021 「壺屋古窯群窯跡分布調査報告」『那覇市立壺屋焼物博物館紀要』第 22 号
那覇市立壺屋焼物博物館
吉田 健太 2022 「ニシヌ窯跡発掘調査出土遺物報告」『那覇市立壺屋焼物博物館紀要』第 23
号 那覇市立壺屋焼物博物館

第1表：ニシヌ窯跡出土の瓶・徳利観察表

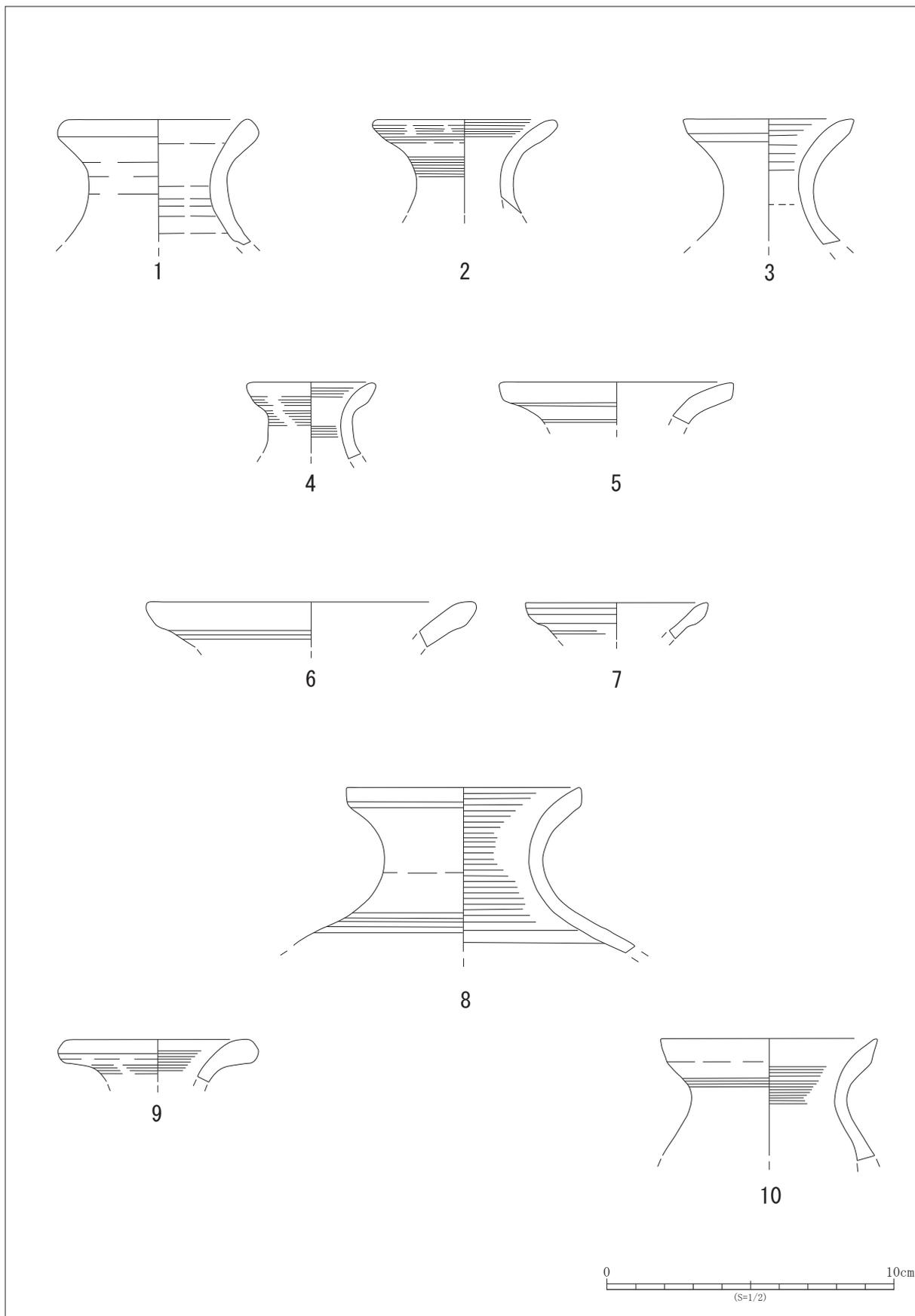
図	番号	出土区	層位	器種	部位	法量(cm)			特 徴
						口径	胴径	底径	
第1図	1	1号窯跡	床面	瓶	口縁部	7.00	—	—	焼成やや強め。胎土は暗赤褐色(2.5YR3/2)、目細かい。外面は自然釉かかる、色調は暗赤灰色(2.5YR3/1)、ヨコナデ。内面ヨコナデ、付着物有。
第1図	2	2号窯跡	床面	瓶	口縁部	6.40	—	—	焼成良好。胎土は赤褐色(5YR4/6)。外面の色調は極赤褐色(5YR3/3)、自然釉、タタキ後ヨコナデ、沈線複数、付着物有。内面はタタキ後ヨコナデ、付着物有。
第1図	3	2号窯跡	3層	徳利	口縁部	6.00	—	—	焼成良好。胎土は赤褐色(2.5YR4/8)、目細かい。外面は釉なし、暗赤褐色(2.5YR3/6)、タタキ後ヨコナデ。内面はタタキ後ヨコナデ、頸部から口縁部にかけて引き上げ痕有り。左下から右上に上げており、轆轤回転は左方向と考えられる。
第1図	4	3号窯跡	床17下	瓶	口縁部	4.40	—	—	焼成やや弱い。胎土は橙色(2.5YR6/8)。外面は釉なし、橙色(2.5YR6/8)。内面はヨコナデ、ヨコナデ一部が左から右上がりが見られることから、轆轤回転は左方向と考えられる。
第1図	5	3号窯跡	床17下	瓶	口縁部	8.20	—	—	焼成良好。胎土は橙色(2.5YR6/8)、小石粒含まれる。外面は釉なし、暗赤褐色(2.5YR3/6)、ヨコナデ。内面はヨコナデ、付着物有。
第1図	6	3号窯跡	床17下	瓶	口縁部	11.40	—	—	焼成良好。胎土は暗赤褐色(2.5YR3/3)、目細かい。外面は釉なし、にぶい赤褐色(5YR5/4)、ヨコナデ。内面はヨコナデ、付着物有。
第1図	7	3号窯跡	床17	瓶	口縁部	6.40	—	—	焼成やや強め。胎土は灰赤色(2.5YR4/2)、目細かい。外面は釉なし、赤黒色(2.5YR2/1)、ヨコナデ、付着物有。内面ヨコナデ、付着物有。
第1図	8	3号窯跡	床14下	瓶	口縁部	8.20	—	—	焼成良好。胎土は黒褐色(7.5YR3/2)、目細かい。外面は釉なし、色調は極暗褐色(7.5YR2/3)、ヨコナデ。内面ヨコナデ。
第1図	9	3号窯跡	床14下	瓶	口縁部	7.00	—	—	焼成良好。胎土は橙色(2.5YR6/6)。外面は釉なし、明赤褐色(2.5YR5/6)、ヨコナデ。内面ヨコナデ。
第1図	10	3号窯跡	床14下	瓶	口縁部	7.60	—	—	焼成良好。胎土は暗赤褐色(2.5YR3/4)、目細かい。外面釉なし、色調はにぶい赤褐色(2.5YR4/3)、ヨコナデ、付着物有。内面ヨコナデ、付着物有。

第2図	11	3号窯跡	床14下	徳利	ほぼ完形	4.00	9.6	6.8	焼成良好。胎土は赤色(10R4/6)、粒まばらに含む。釉薬なし。外面はタタキ後ヨコナデ、沈線複数有付着物有。内面は口縁部にてヨコナデ確認される。
第2図	12	3号窯跡	床14下	徳利	ほぼ完形	4.20	8.7	6.3	焼成良好。胎土はにぶい赤色(7.5R4/4)。自然釉(極暗赤褐色2.5YR2/3)。外面はタタキ後ヨコナデ、沈線複数および付着物有。沈線は右から左方向に施文されていることから轆轤は左回転と考えられる。内面は口縁部のみ自然釉かかる。
第2図	13	3号窯跡	床14下	瓶	底部	—	11.20	7.00	焼成強めに受ける。胎土は暗赤色(7.5R3/6)、粒多く含む。外面は釉なし、極暗赤褐色(7.5R2/3)、タタキ後ヨコナデ、沈線有、付着物(溶着片)が多く残る。
第2図	14	3号窯跡	床13下	瓶	口縁部	6.40	—	—	焼成良好。胎土は明赤褐色(2.5YR5/8)。目細かい。外面は釉なし、灰赤色(2.5YR6/2)、ヨコナデ、付着物有。内面ヨコナデ、付着有。
第2図	15	3号窯跡	床13	瓶	口縁部	8.20	—	—	焼成良好。胎土は橙色(2.5YR6/8)、目細かい。外面は釉なし、灰赤色(2.5YR5/2)、ヨコナデ。内面ヨコナデ、頸部から口縁部にかけて引き上げ痕有。引き上げ痕は左下から右上におこなっていることから、轆轤回転は左方向と考えられる。
第3図	16	3号窯跡	床13	瓶	口縁部	6.00	—	—	焼成強く受ける。胎土は黒褐色(7.5YR2/2)。外面は釉なし、黒褐色(7.5YR2/2)、ヨコナデ。
第3図	17	3号窯跡	床12下	瓶	口縁部	5.80	—	—	焼成強めに受ける。胎土はにぶい褐色(7.5YR5/4)。外面は釉なし、黒褐色(7.5YR3/2)、ヨコナデ、付着物有。内面ヨコナデ。
第3図	18	3号窯跡	床12下	瓶	口縁部	8.60	—	—	焼成やや弱い。胎土は橙色(5YR7/6)。外面は橙色(5YR6/6)、タタキ後ヨコナデ、沈線複数有。内面はタタキ後ヨコナデ、付着物有。
第3図	19	3号窯跡	床12下	瓶	口縁部	5.60	—	—	焼成やや弱い。胎土は橙色(5YR7/6)。外面は橙色(5YR6/6)、タタキ後ヨコナデ、沈線複数有。内面はヨコナデ、付着物有。
第3図	20	3号窯跡	床12下	瓶	口縁部	5.40	—	—	焼成やや強めに受ける。胎土は赤褐色(10R4/4)、粒まばらに含む。外面は暗赤褐色(10R3/3)、内外面ヨコナデ、付着物有。
第3図	21	3号窯跡	床12下	瓶	口縁部	6.80	—	—	焼成良好。胎土は赤色(10R4/8)。外面は暗赤色(10R3/4)、内外面にヨコナデ、付着物有。

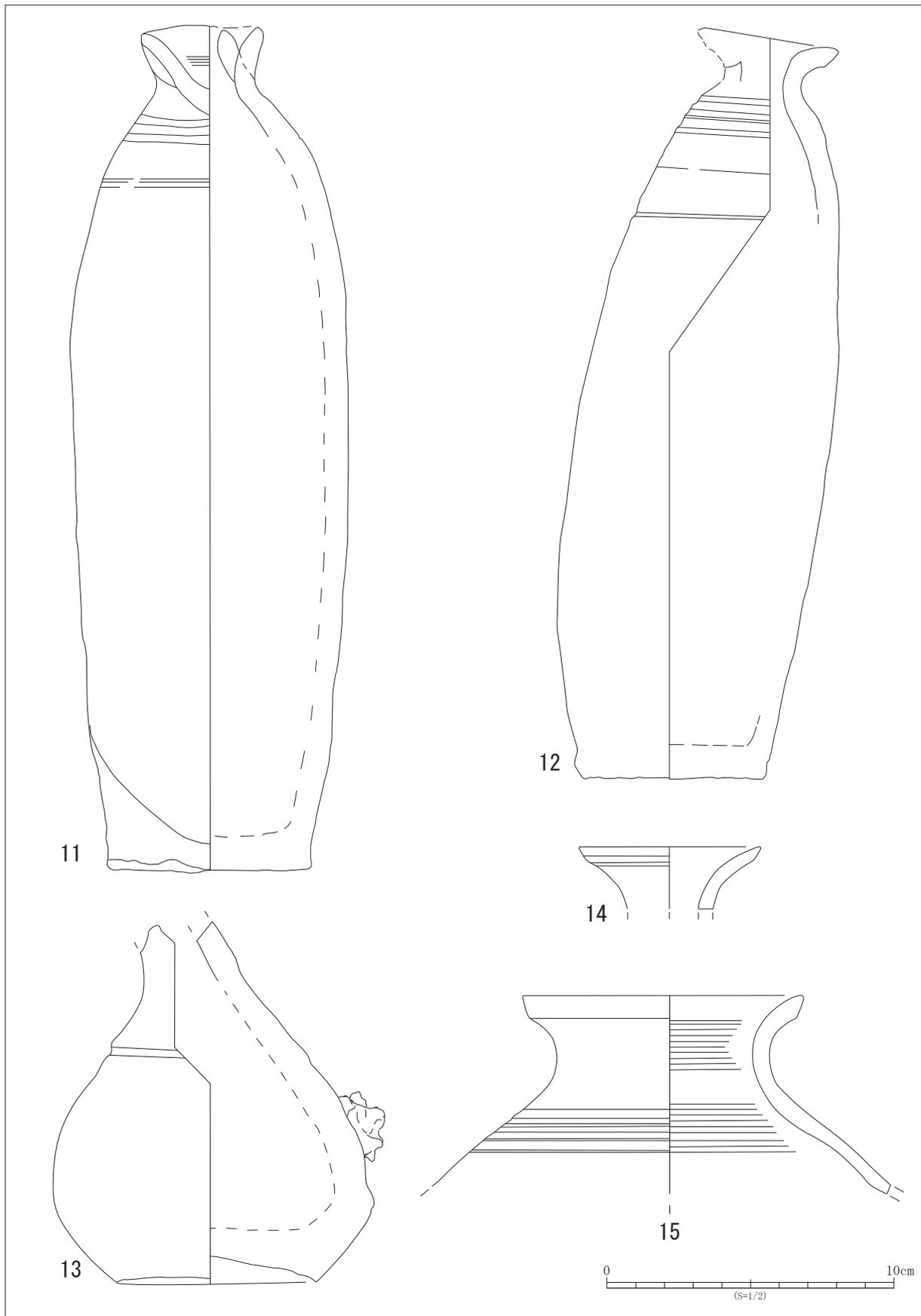
第3図	22	3号窯跡	床12下	瓶	口縁部	6.80	—	—	焼成良好。胎土は灰褐色(5YR4/2)、粒まばらに含む。外面は黒褐色(7.5YR3/2)、タタキ後ヨコナデ、沈線有、付着物有。内面にヨコナデ、左下から右上方向のナデ有。轆轤回転は左方向と考えられる。
第3図	23	3号窯跡	床12下	瓶	口縁部	4.00	—	—	焼成良好。胎土は赤色(10R5/8)。外面は暗赤褐色(10R3/3)、ヨコナデ、付着物有。内面にヨコナデ、ナデ方向は右上がりの部分が一部見られることから、轆轤回転は左方向と考えられる。
第3図	24	3号窯跡	床12下	徳利	口縁部	4.20	7.00	—	焼成良好。胎土は赤褐色(10R4/4)、粒まばらに含む。外面はにぶい褐色(7.5YR5/4)、タタキ後ヨコナデ、沈線複数有。内面にヨコナデ、胴部から頸部にかけてつなぎ目見られる。
第3図	25	3号窯跡	床12	瓶	口縁部	5.40	—	—	焼成良好、やや白色化。胎土は明褐灰色(5YR7/1)。外面は釉なし、にぶい褐色(7.5YR5/4)、ヨコナデ。内面にヨコナデ。
第3図	26	3号窯跡	床10・11下	瓶	口縁部	6.80	—	—	焼成やや弱い。胎土は橙色(5YR7/6)、目細かい。外面は釉なし、赤褐色(5YR4/8)、ヨコナデ、付着物有。内面ヨコナデ。
第3図	27	3号窯跡	床10・11下	瓶	口縁部	4.50	—	—	焼成やや弱め。胎土は橙色(5YR6/6)。外面は釉なし、明赤褐色(5YR5/6)、ヨコナデ。内面ヨコナデ。
第4図	28	3号窯跡	床10・11下	瓶	口縁部	5.40	—	—	焼成良好。胎土は明赤褐色(2.5YR5/6)。外面は釉なし、極暗赤褐色(2.5YR2/2)、ヨコナデ。内面ヨコナデ。
第4図	29	3号窯跡	床10・11下	瓶	口縁部	6.80	—	—	焼成良好。胎土は橙色(2.5YR6/6)。外面は自然釉、暗赤褐色(2.5YR3/3)、ヨコナデ。内面ヨコナデ。
第4図	30	3号窯跡	床10・11下	瓶	口縁部	7.80	—	—	焼成良好。胎土は橙色(2.5YR6/8)。外面は釉なし、にぶい赤褐色(2.5YR5/4)、ヨコナデ。内面ヨコナデ。
第4図	31	3号窯跡	床10・11下	瓶	口縁部	5.20	—	—	焼成弱い。胎土は橙色(2.5YR6/6)。外面は釉なし、橙色(5YR6/6)、ヨコナデ。内面ヨコナデ。
第4図	32	3号窯跡	床10・11下	瓶	口縁部	6.40	—	—	焼成強め。胎土はにぶい赤褐色(5YR4/3)。外面は釉なし、にぶい赤褐色(5YR4/3)、ヨコナデ、付着物有。内面ヨコナデ。
第4図	33	3号窯跡	床10・11下	瓶	口縁部	3.90	—	—	焼成良好。胎土は灰褐色(5YR4/2)。外面は釉なし、にぶい赤褐色(5YR5/3)、ヨコナデ、付着物有。内面ヨコナデ、ナデ方向は右上がりの部分が一部見られることから、轆轤回転は左方向と考えられる。

第4図	34	3号窯跡	床10・11下	瓶	底部	—	8.90	5.80	焼成やや強めに受けている。胎土はにぶい赤褐色(7.5R4/3)、粒まばらに含む。外面は釉なし、灰褐色(5YR4/2)、ヨコナデ、沈線有、付着物有。
第4図	35	3号窯跡	床11下	瓶	口縁部	7.00	—	—	焼成良好。胎土は暗赤色(10R3/6)。外面は釉なし、色調は暗赤褐色(2.5YR3/2)、ヨコナデ、付着物有。内面はヨコナデ、付着物有。
第4図	36	3号窯跡	床11下	瓶	口縁部	6.60	—	—	焼成良好。胎土はにぶい赤褐色(5YR5/3)、目細かい。外面は釉なし、色調は黒褐色(5YR2/2)、ヨコナデ。内面ヨコナデ。
第4図	37	3号窯跡	床11下	瓶	口縁部	4.80	—	—	焼成やや強め。胎土は橙色(2.5YR6/8)。外面は釉なし、色調は橙色(2.5YR6/8)。内面はヨコナデ。
第4図	38	3号窯跡	床10・11	瓶	口縁部	—	—	—	焼成良好。胎土は明赤褐色(2.5YR5/8)。外面は釉なし、色調はにぶい赤褐色(2.5YR5/3)、ヨコナデ、付着物有。内面はタタキ後ヨコナデ。
第4図	39	3号窯跡	床11	瓶	口縁部	7.00	—	—	焼成良好。胎土はにぶい赤褐色(2.5YR4/4)、小さな粒含む。外面は釉なし、色調は暗赤褐色(2.5YR3/3)、タタキ後ヨコナデ、付着物有。内面はタタキ後ヨコナデ、頸部引き上げ痕あり。左下から右上に上がっていることから、轆轤回転は左回転と考えられる。
第5図	40	3号窯跡	床10下	德利	口縁部	8.00	—	—	焼成良好。胎土は赤褐色(2.5YR4/8)、小さな粒含む。外面は釉なし、色調は暗赤褐色(2.5YR3/4)、ヨコナデ、付着物有。内面はヨコナデ、口縁部に付着物有。
第5図	41	3号窯跡	床10下	德利	口縁部	3.70	—	—	焼成良好。胎土は赤色(10R4/8)、細かな粒含む。外面は釉なし、色調はにぶい赤褐色(5YR5/4)、ヨコナデ、付着物有。内面ヨコナデ。
第5図	42	3号窯跡	床10下	德利	口縁部	6.80	—	—	焼成強め。胎土は褐色(7.5YR4/3)、目細かい。外面は釉なし、色調は灰褐色(7.5YR4/2)、付着物有。内面付着物有。
第5図	43	3号窯跡	床10下	德利	口縁部	8.80	—	—	焼成やや弱い。胎土は橙色(5YR6/8)、目細かい。外面は釉なし、色調は赤褐色(5YR4/8)、ヨコナデ、付着物有。内面ヨコナデ。
第5図	44	3号窯跡	床10下	德利	口縁部	4.40	8.60	—	焼成やや強め。胎土は赤褐色(10R4/3)、小さい粒含む。外面は釉なし、色調は褐色(7.5YR4/4)、付着物多く有。内面ヨコナデ、頸部から胴部にかけて引き上げ痕有。左下から右上に上がっていることから、轆轤回転は左方向と考えられる。

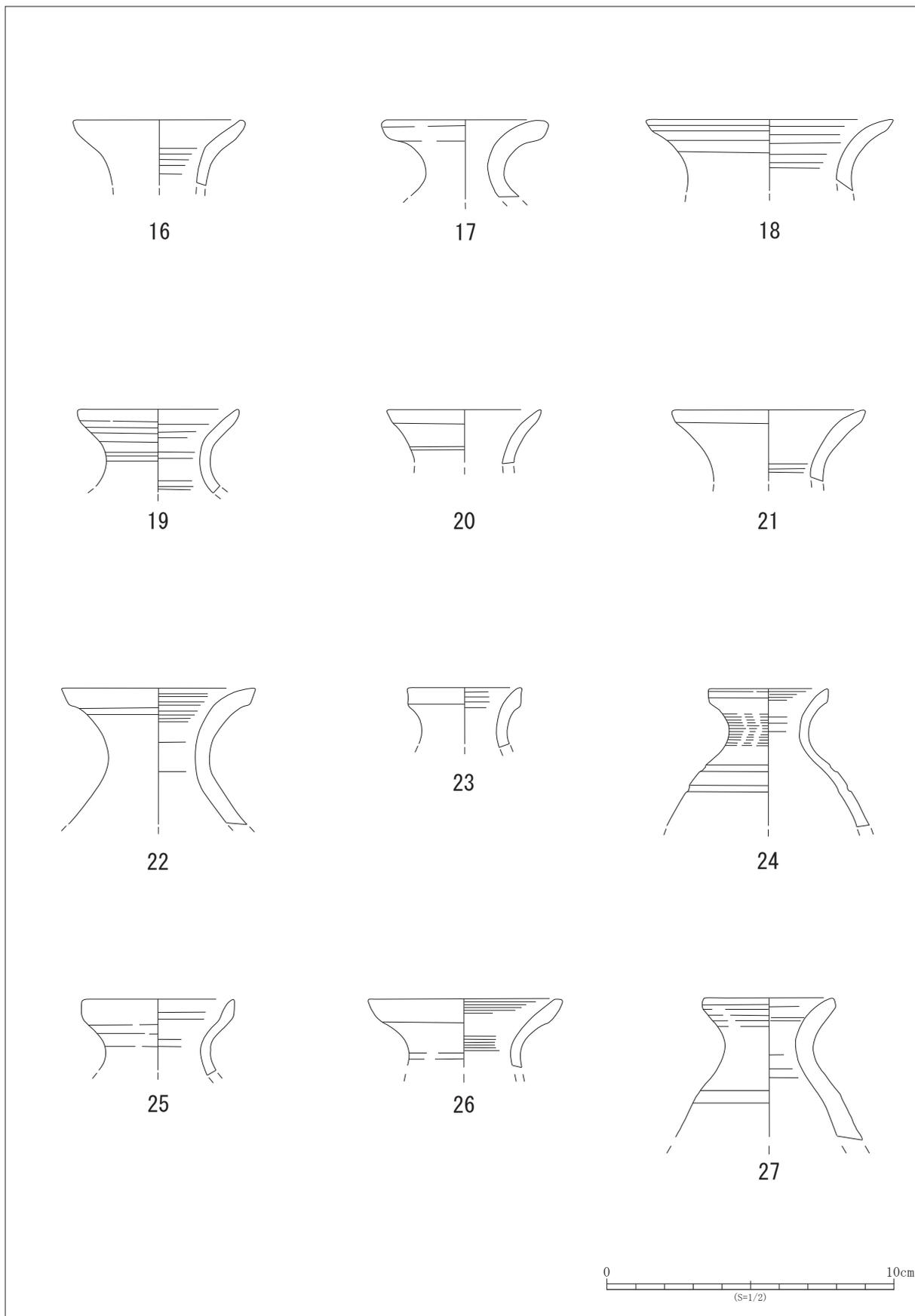
第5図	45	3号窯跡	床9下	瓶	口縁部	5.20	—	—	焼成良好。胎土は極暗赤褐色(2.5YR2/3)。外面は全体的に自然釉有、色調は黒褐色(7.5YR3/2)。タタキ後ヨコナデ。内面ヨコナデ。
第5図	46	3号窯跡	床6下	瓶	口縁部	—	—	—	焼成やや弱い。胎土は橙色(2.5YR6/8)。外面は釉なし、明赤褐色(2.5YR5/6)、ヨコナデ。内面には付着物有り。
第5図	47	3号窯跡	床6下	瓶	口縁部	—	—	—	焼成良好。胎土は赤色(10R5/8)。外面は釉なし、明赤褐色(2.5YR5/6)、ヨコナデ。内面には付着物有り。
第5図	48	3号窯跡	床6下	瓶	口縁部	—	—	—	焼成やや強め。胎土は褐色(7.5YR4/4)。外面は自然釉(灰)、色調は暗褐色(7.5YR3/4)、ヨコナデ。内面ヨコナデ。
第5図	49	4号窯跡	床2	徳利	口縁部	6.00	—	—	焼成良好。胎土は灰褐色(7.5YR4/2)。外面は釉なし、色調は黒褐色(7.5YR2/2)、ヨコナデ。内面ヨコナデ、頸部に引き上げ痕あり。左下から右上に上がっていることから、轆轤回転は左方向と考えられる。
第5図	50	4号窯跡	床2	徳利	口縁部	6.00	—	—	焼成良好。胎土はにぶい赤褐色(2.5YR4/3)、目細かい。外面は釉なし、色調はにぶい赤褐色(2.5YR4/3)、ヨコナデ。内面はヨコナデ、付着物有。



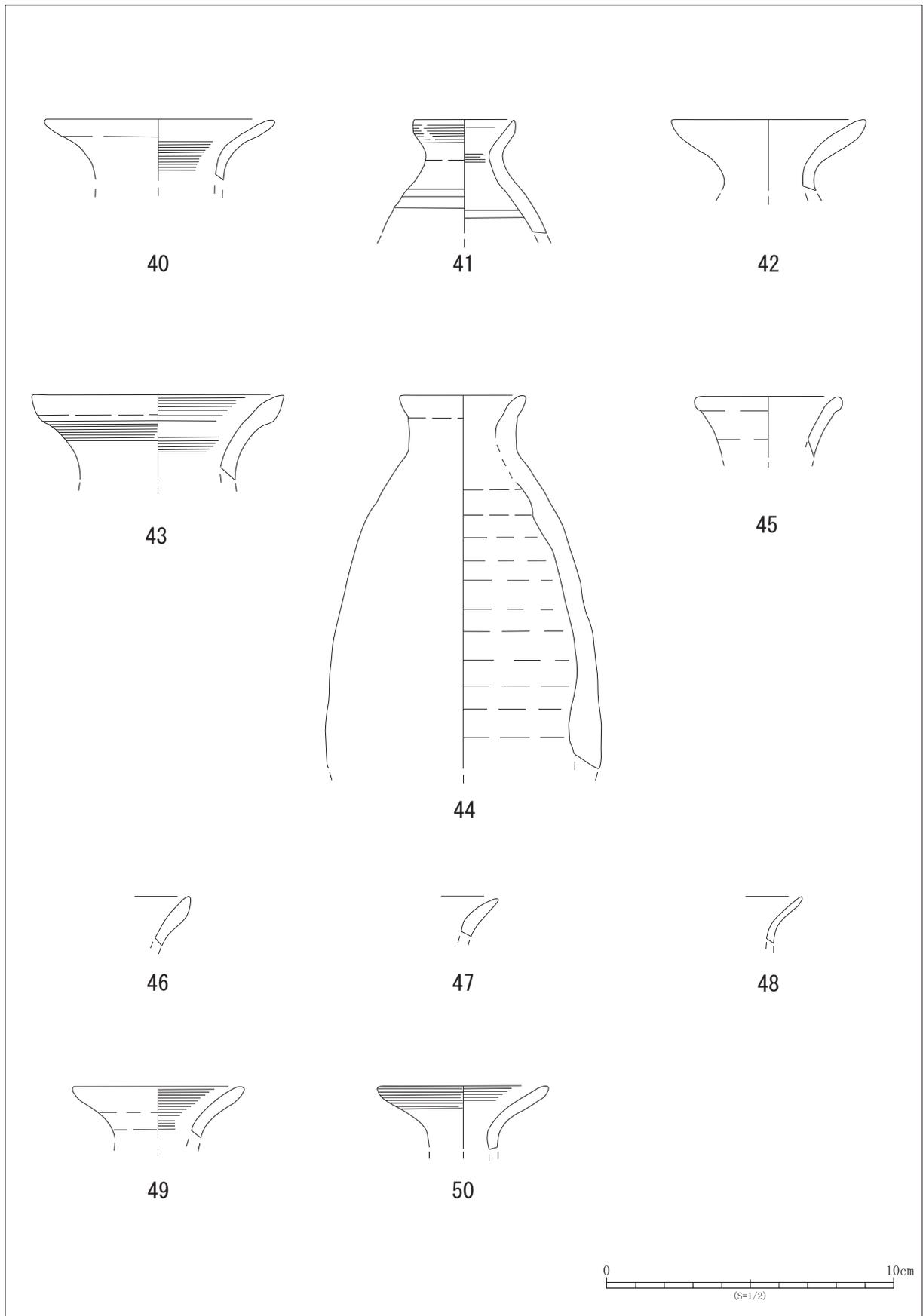
第1図 ニシヤ窯跡出土瓶・德利（1）



第2図 ニシ又窯跡出土瓶・徳利（2）



第3図 ニシヌ窯跡出土瓶・徳利（3）



第5図 ニシ又窯跡出土瓶・徳利（5）